随筆

『三重県文化史キーワード年表』と正木病院

飯　田　良　樹（久居一志地区）

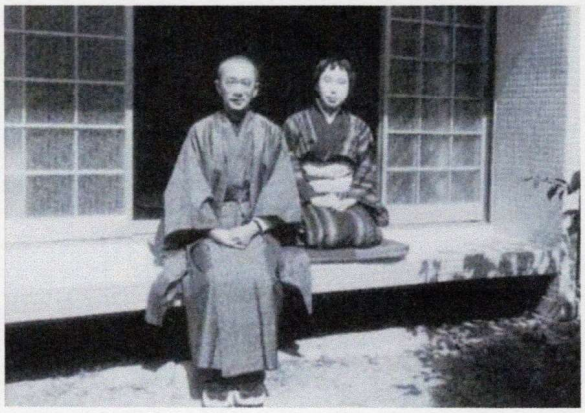
私の本棚に『三重県文化史キーワード年表』1998年発行 田端美穂編集の本がある。

この本には縄文時代より1975（昭和50）年までの年号別に事項が書かれ欄外にキーワードの説明が詳細に記載され、関連付録資料も付いている。

いろんな事を調べるに当たり、前知識として活用すると便利な本である。

何故、私の手元にこの本があるかというと、田端美穂氏が県立博物館館長を退職され、松阪木綿センター長をされていた時、それまでに執筆され集められた資料をノートに纏められ、出版して県内図書館や学校などの教育機関に配布したいが資金がないと悩んでおられた。

関係者から、その悩みを聞いた医師 正木良策が、故 正木高綱には子供が無く関係親族が遺産を引き継いだので「文化を愛した高綱氏の人柄を偲び、文化活動振興の一助として役立てたい」と親族によびかけて、遺産の一部を提供して出版された。私の祖母 幸枝は、高綱氏の姉であり遺産継承者であったので遺産の一部を提供し、この本を頂いたという訳である。



正木高綱は1907（明治40）年に多気郡斎宮村金剛坂909(現明和町)で医師 綱太郎の３男４女の末子として誕生。京都府立医学専門学校卒業後に宇治山田赤十字病院小児科に勤務、戦後は宇治山田保健所に勤務し退職後、三重県対ガン協会・各種専門学校講師として死の直前まで活動していた。

宇治山田赤十字病院勤務時代に結婚したが子息英一を産後に亡くした。クラシック音楽を聴いたり、ピアノを弾いて悲しみを癒やした。1991（平成３）年 妻 美弥子を亡くし、1995（平成７）年伊勢市八日市場で生涯を閉じる。

高綱氏の生家である正木病院は、昭和風土記（昭和７年発行）と斎宮村郷土誌（昭和10年）及び松阪地区医師会の東医院 東 隆太郎先生が「三代目奮闘記～僕は三代目か？～」『松阪医報No. 124』で正木一族について書いておられるので引用させて頂き、要約すると、

正木家は童也が家祖。宇治山田市河崎町の浄土

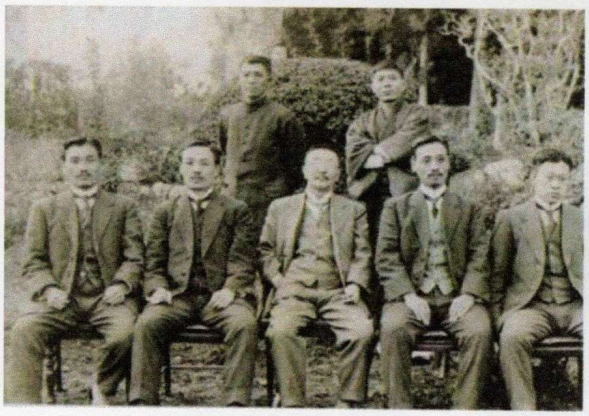
宗真正院住職で八木と称していたが、1869（明治２）年に帰俗して米商を営むが失敗し、八木は米に通じると「正木」に改名。明治10年度会県師範学校卒業、斎宮に移り金剛坂学校の訓導（教諭）、花岡学校長を務めた後に1897（明治30）年66歳で病死。

綱太郎は童也の一人息子。1869（明治２）年山田で生まれ、愛知医学校を卒業。大津の監獄医を勤務した後に1896（明治29）年斎宮村金剛坂の永井家を借り医業を始める。その後、廃寺の庵屋敷を買い医院を新築する。病室を建て増して正木病院となる。1919（大正８）年病死する。

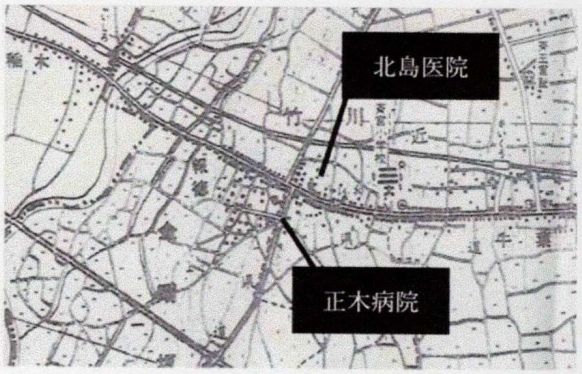
碌也は綱太郎の長男。1897（明治30）年生。1926（大正15）年九州帝国大学医学部を卒業後、日本赤十字病院山田支部に勤務した後、閉鎖していた正木病院を復興する。外科医で柔道初段。自ら射撃場を設営して楽しむ。私が小さい頃に良く狩猟で獲った雉を頂いた記憶がある。郡医師会会長。次弟 土用朗は慈恵医学校卒業後度会郡小俣町で開業し、長男の弘見は一志郡白山町で正木医院を開業。三男 高綱は前述した。長女 勲は正木病院に勤務されていた東 茂医師と結婚して相可の両郡橋横で東医院を開院、東 茂と勲のあいだに隆太郎先生のお父さん隆先生が生まれる。次女三好は鞍馬平太朗と結婚し、子供のこやすは中町の脇田藤朗(快楽亭)と結婚。三女 幸枝は京都府立医学専門学校卒業の飯田広雄（私の祖父）と結婚し一志郡川合村八太で飯田医院開業。養女 晶子は根来家に嫁ぎ、ご子息は藤田保健衛生大学脳神経外科教授の根来 眞先生。

碌也の長男 良策は三重県立医大を1965（昭和40）年卒業後、整形外科医となるも勤務医の道を選び、正木病院は閉院する。

正木病院正面玄関前で家族と従業員



正木病院の医師
前列、左端：北島岩八（北島医院を開業）、
真中：正木綱太郎、右隣：東 茂（東医院を開業）



『明和町史』昭和47年　附録地図　昭和36年

三重県下の皆さんに知って欲しい閉院した病院を今まで書いてきたが、今回は東 隆太郎先生や私の先祖が斎宮地域の方々の医療を担っていた事を残しておきたく、「正木病院」を執筆した。